

10. 短報

1. 渡邊正（直士）氏の訃報

第2次世界大戦終結直後の、参謀本部（市ヶ谷）からの大学関係者による外邦図の持ち出しに重要な役割を果たされた渡邊正氏は、2013年11月5日逝去された。享年97歳。

渡邊氏の葬儀は同11月10日、同氏の自宅近くの東京都杉並区南荻窪3-31-23の願泉寺で行われ、外邦図研究会参加者では金窪敏知、塚田野野子両氏と小林茂が参加した。

渡邊氏の略歴ならびに同氏が多田文男をはじめとする地理学者を動員して組織した兵要地理調査研究会については、渡邊正氏所蔵資料集編集委員会編2005、『終戦前後の参謀本部と陸地測量部：渡邊正氏所蔵資料集』大阪大学文学研究科人文地理学教室を参照していただきたい。



渡邊正（直士）氏（1916-2013）

2. 山本晴彦氏の『帝国日本の気象観測ネットワーク：満洲・関東州』農林統計出版（330p.）の刊行（2014年1月）

かねてより、旧満洲ならびに関東州における気象観測の歴史を検討してきた山本晴彦氏（山口大学農学部／農業気象）が、『帝国日本の気象観測ネットワーク』の第一冊として満洲・関東州篇を刊行した。戦前戦中期に海外で日本の関与した気象観測の成果は、現代に受け継がれ活用されているとは言いがたい側面が多い。この著作は、埋もれている気象観測データの発掘と活用をめざすもので、外邦図や空中写真とともに気象観測データの再生と活用をめざす本研究の一環として行った調査活

動の成果も各所で生かされており、対象地域の気象観測データの探索や利用にも大きな意義を持つと予想される。また現在山本氏は、他の地域についても類似の著作を精力的に準備中で、日本の関与した近代東アジアの気象観測が今後次々と明らかになると期待される。以下主な目次を示す。

まえがき

序章 課題と方法

第1章 満洲における気象観測資料の保存・公開

第2章 東清鉄道による気象観測と北満における気象記録

第3章 関東州における気象観測の変遷

第4章 南満洲鉄道株式会社における気象観測の変遷

第5章 満洲国中央観象台における気象観測の変遷

第6章 関東軍気象部の創設と変遷

第7章 中央気象台の気象業務と満洲国中央観象台との連携

第8章 満洲に関連する気象資料

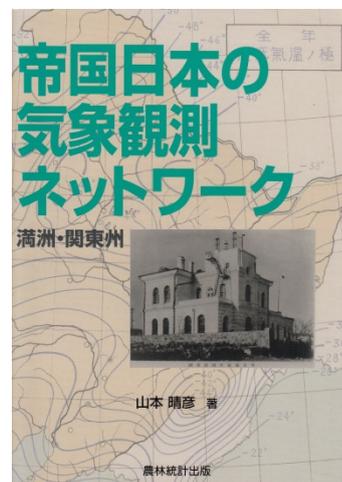
第9章 満洲気象観測資料のデータベース化と気象環境の評価

第10章 終戦後における満洲国中央観象台の職員の状況

終章

附図

索引



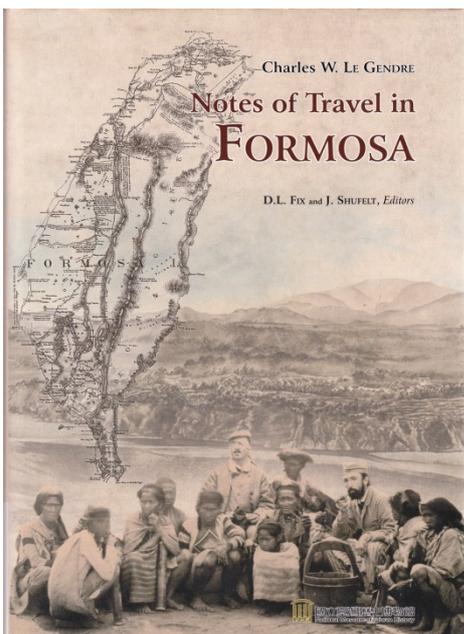
『帝国日本の気象観測ネットワーク：満洲・関東州』表紙

3. Charles W. Le Gendre, *Notes of Travel in Formosa*. National Museum of Taiwan History 475p. (2012) の刊行

Charles Le Gendre (以下ル・ジャンドル、1830-1899) は、アメリカの厦門領事として活動するなかから台湾に関する関心を深め、その内陸部への旅行をおこなうとともに関連した記録を残した。また当時としては最も詳しい台湾地図を作製し刊行している。ル・ジャンドルは 1874 年の台湾出兵に関して、日本の顧問として活動し、本書の本文に当たる部分 (和訳『ル・ジャンドル台湾紀行』[我部政男・栗原純編] は緑陰書房より 1998 年に刊行) や台湾南部の地図を日本政府に提供している。今回の刊行により、その原文が読めるだけでなく、アメリカ議会図書館蔵の手描き台湾地図 (60 万分の 1) も添付されており、彼の活動がいっそう理解しやすくなった。また編者の D.L. Fix と J. Shufelt の解説と論考も冒頭に配置されている。なお、本書の漢訳版『李仙得台湾紀行』(国立台湾歴史博物館) も 2013 年に刊行されている。英語版・漢訳版いずれも台北の南天書局が発売元になっていることをあわせて付記しておく。

4. ソウル市立大学博物館『地図：20 世紀東アジア歴史物語』(韓文、221p.) の刊行

東アジアおよび韓国に関する近代地図を収録する『地図：20 世紀東アジア歴史物語』がソウル市立大学博物館から刊行された (2013 年)。数多く刊行されている韓国の古地図集では、朝鮮王朝時代の地図が主に掲載され、近代地図については余り配慮されていない場合が少なくない。本書は第一部が東アジア、第二部が朝鮮、第三部がソウルと 19 世紀末～20 世紀中ごろまでの各種地図が掲載され、この地域の植民地期の地図の重要なコレクションとなっている。なかでも「(地番区劃入) 大京城精密圖」(1936 年、176～194 頁) は、この時期のソウルを研究する上で大きな意義を持つと考えられる。



Notes of Travel in Formosa 表紙